

第156回愛知学院大学モーニングセミナー

**不確実性の時代を超えて
～平成を振り返り、学ぶ～**

**中日新聞社編集局次長
寺本 政司**

1

2019年3月12日

平成時代とは何か？

■ 冷戦の終結

- 東アジアの反共の砦 …… 経済優先主義、安保タダ乗り論「水と安保はフリー」
- 国際社会への貢献 …… 安全保障への関与拡大、日米同盟の再定義

■ バブル経済崩壊

- 失われた20年 …… 構造不況、デフレ、
- グローバルスタンダード …… 企業統治、会計基準、規制緩和、不祥事
- 雇用環境の変化 …… 終身雇用、年功序列の崩壊、非正規労働の増加

■ 戦後神話の崩壊

- 成長神話の崩壊 …… 長期不況、所得の伸び悩み、少子高齢化
- 安全神話の崩壊 …… 相次ぐ大災害、福島第一原発事故、製造業での不正
- 治安神話の崩壊 …… オウム真理教事件、凶悪化する少年犯罪

■ 花開くソフトパワー

- ハードパワー …… 軍事、警察、政治、経済、外交
- ソフトパワー …… 文化的な魅力、価値観、外交政策
- ジャパニーズ・クール …… アニメ、Jポップ、Jホラー、大衆小説
- スポーツ界 …… 野茂英雄、イチロー、大坂なおみ
- ノーベルラッシュ …… 平成時の受賞者は19人、戦後は26人

平成の宰相

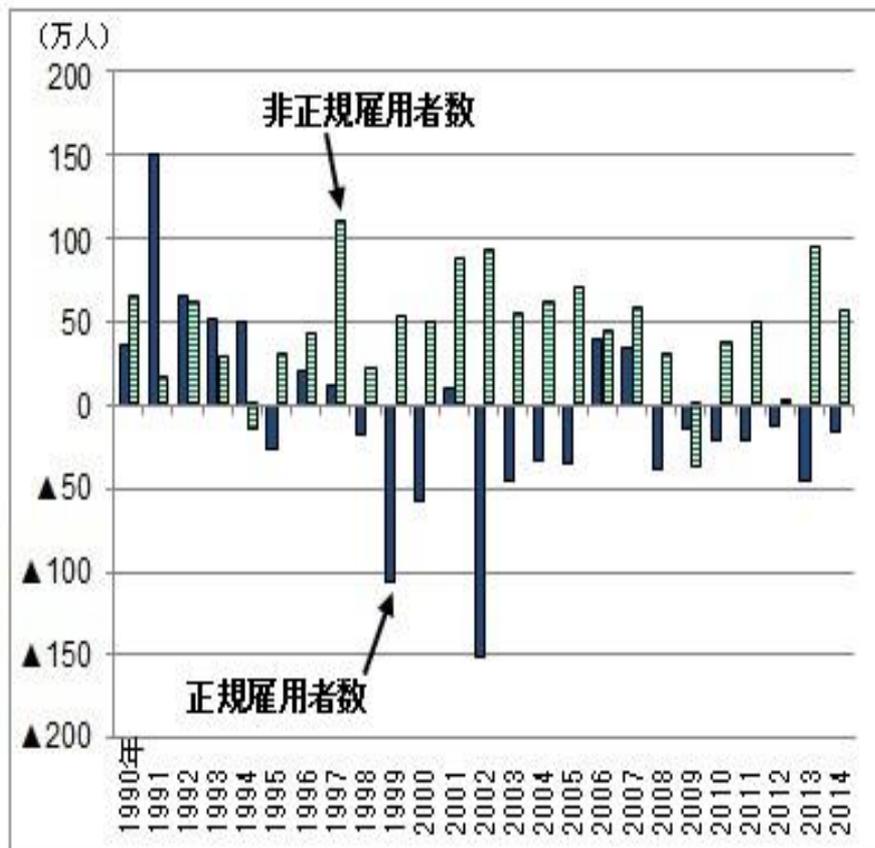
竹下 登	1988・11～89・6	576日
宇野 宗佑	89・6～89・8	69日
海部 俊樹	89・8～91・11	818日
宮澤 喜一	91・11～93・8	644日
細川 護熙	93・8～94・4	263日
羽田 孜	94・4～94・6	64日
村山 富市	94・6～96・1	561日
橋本龍太郎	96・1～98・7	932日
小渕恵三	98・7～2000 .4	616日
森 喜朗	00・4～01・4	387日
小泉純一郎	01・4～06・9	1980日
安倍 晋三（第1次）	06・9～07・9	366日
福田 康夫	07・9～08・9	365日
麻生 太郎	08・9～09・9	358日
鳩山由紀夫	09・9～10・6	266日
菅 直人	10・6～11・9	452日
野田 佳彦	11・9～12・12	482日
安倍 晋三（第2次）	12・12～現在	

正規・非正規雇用の推移

図1 正規・非正規雇用者数(実数)



図2 正規・非正規雇用者数(対前年増減)



冷戦崩壊とその後の国際情勢

1989・6	中国・天安門事件
89・11	東欧の民主化、ベルリンの壁崩壊
12	マルタ会談 米ソ首脳が「冷戦の終結」を宣言
90・9	父ブッシュ米大統領が「新世界秩序へ向けて」演説
10	東西ドイツ統一
91・1	湾岸戦争
12	ソ連解体
94・10	米朝枠組み合意 「核を持って核を制す」
95・7	台湾海峡危機 米中の軍事緊張
97・7	中国への香港返還
7	アジア通貨危機
98・5	パキスタンが核実験、インドが対抗
99・1	欧州通貨ユーロ発行
3	NATOのユーゴ空爆 「人道的介入」
2000・6	南北首脳会談
01・9	米中枢同時テロ
10	アフガニスタン紛争
02・9	日朝首脳会談
03・3	イラク戦争
04・3	マドリード列車爆破事件
05・7	ロンドン同時爆破テロ
08・9	リーマンショック
10・12	チュニジア・ジャスミン革命（～12 アラブの春）
11・3	シリア内戦 欧州への難民流入
14・3	ロシアがクリミア併合
15・11	パリ同時多発テロ
16・6	英国が国民投票でEU離脱を決定
17・1	米トランプ政権発足
6	米国がパリ協定からの離脱を表明
18・6	米朝首脳会談
10	米国がINF全廃条約から離脱表明
12	米軍がシリア撤退開始

冷戦後の国際社会とは？

■ 歴史の終わり(フランシス・フクヤマ、1992年)

冷戦の終結 → リベラルな民主主義の勝利

グローバル社会 → 近代的で民主的な唯一の価値観を共有、楽観主義

■ 文明の衝突(サミュエル・ハンティントン、1996年)

イデオロギーからの解放 → アイデンティティ(民族、宗教、言語など)への回帰、国民国家の崩壊

グローバル社会 → 異なる価値観が共存する多極な世界、悲観主義

■ 帝国以後(エマニュエル・トッド、2002年)

唯一の超大国・米国は幻想、実は衰退期

→ 貧富の格差に伴う民主主義の危機、双子の赤字など世界経済への依存

米国の軍事力を背景にした振る舞い

→ 中東、アフリカの紛争介入、国際社会を不安定に

■ ネオコンの論理(ロバート・ケーガン、2003年)

頻発するテロ → 国際社会は野蛮で危険

超大国の米国は世界の警察 → 武力による単独行動、民主化の伝道師(イラク戦争)

■ 21世紀の資本(トマス・ピケティ、2013年)

新自由主義(規制緩和、小さな政府) → 貧困のグローバル化と格差社会を背景にしたテロ

格差の是正 → 富裕税の導入など国際社会の役割

GNPからGNCへ

- **GNC(Gross National Cool) = 国民的カッコよさ**
米ジャーナリスト、ダグラス・マッグレイ氏が「フォーリン・ポリシー」(2002年)で提唱
長期不況、終身雇用の崩壊 → 優秀な人材が大衆文化、芸術などの分野へシフト
インターネットの普及 → 自動車や家電などの技術 + 娯楽性 = 消費文化
- **米国のソフトパワー**
リーバイス、ジャズ、ハリウッド、マクドナルド → 自由の国を連想
「文化的インパクトは経済の浮き沈みに関係なく、影響力を発揮する」
(マッグレイ氏)
但し、軍事力の行使、外交政策で逆効果も
イラク戦争 …… フランスやイスラム諸国でマクドナルド襲撃、
インドネシアの米ホテルチェーンで自爆テロ
- **日本のソフトパワー**
増える海外の担い手 → 「日本経営論」から「サムライ論」へ
米国のオタク → 個性的、少年犯罪の防止
村上春樹 → 共通の価値観、非エキゾチック
茶道、歌舞伎 → 「カラオケでビートルズを歌う」

ジャパニーズ・クール（1）



ジャパニーズ・クール（2）



美しき停滞、そして成熟社会へ

■ 「普通の国」か「理想の国」か

特定秘密保護法、安全保障関連法、改憲

→ 戦後平和憲法の空洞化 → 戦争できる国に

アベノミクス、株価至上主義、外国人労働者の拡大

→ 経済大国へのこだわり

■ 豊かさの物差しは

スペイン、スウェーデンは不幸な国なのか？

■ 「日本のいわゆる発展は終わりで、あとはよき停滞、美しき停滞をできるかどうか。これを民族の能力をかけてやらなければいけないんです」

(司馬遼太郎、井上ひさし『国家・宗教・日本人』、1996年)

■ 「日本はわれわれの時代でもっとも発展した経済大国として人類発展の次の段階に進み、新たな社会モデルを世界に提示する義務がある」

(ジョン・ケネス・ガルブレイス、2003年)